

紅葉遺跡発掘調査報告書

2003年3月

五所川原市教育委員会

序 文

紅葉遺跡は、当市の原子溜池に接する丘陵平坦部に位置します。先人の営みを繙くために、平成12年度より住居跡を中心に磁気・レーダ探査を行った結果、数多くの建物跡が確認されました。

その探査を踏まえ、今年度発掘調査を実施したところ、住居跡2棟が検出され、この地域の建物跡の構造が明らかになりました。

振り返れば平成12年の夏、須恵器窯跡群検討委員の先生方を先導し、藪の中を鉈で蔓をはらいながら進んでいったことが思い出されます。

今回刊行される報告書が、地域の文化財に対する意識の高揚と保護への関心が高まればと考えております。

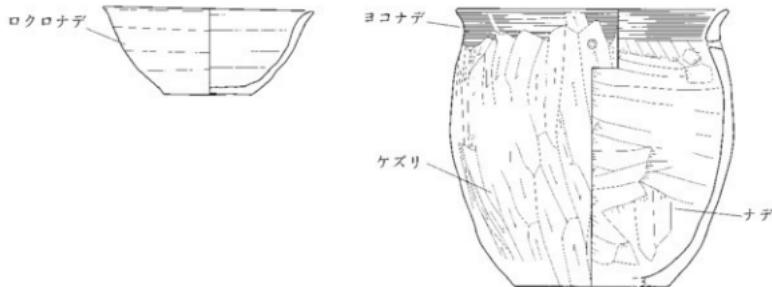
最後になりますが、この報告書を刊行するにあたり、並々ならぬご指導、ご助言を賜りました須恵器窯跡群検討委員並びに関係機関の各位には、この場を借りて感謝申し上げます。

平成15年3月

五所川原市教育委員会
教育長 原田信夫

例　言

1. この報告書は五所川原市大字原子字紅葉285-7に所在する紅葉遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の遺跡番号は、05012番である。
3. 本報告書の執筆・編集は藤原が行った。
4. 出土遺物・実測図・写真等は、現在五所川原市教育委員会で保管している。
5. 発掘及び本報告書の作成にあたり、次の機関及び方々から御協力・御助言を頂いた。ご芳名を記し、感謝申し上げる次第である(敬称略、アイウエオ順)。
川口(太田原)潤、坂井秀弥、関根達人、茅野嘉雄、永嶋豊、福田友之、三浦圭介
6. 引用、参考文献については、本文末に収めた。文中に引用した文献名については、著者名(編者名)と西暦年で示した。
7. 七色の色調は「新版標準土色帖」(小山・竹原 1967 (1988年度版))に準じた。また遺構内埋土の層序にはアラビア数字(1・2・3・・・)を使用した。
8. 遺構の方位、縮尺は図面ごとに示した(縮尺不同)。
9. 出土遺物は原則として縮尺3分の1とした。
10. 遺物写真の縮尺は統一していない。写真番号は実測図番号と一致する。
11. 土器実測図において使用した各種調整技法の表現方法は第1表に示したとおり基本的に青森県埋蔵文化財調査センターの表現方法を踏襲した。



第1表 各種土師器の調整技法

目 次

| | |
|------------------------|----|
| 第1章 調査の概要 | 1 |
| 第1節 調査要項 | 1 |
| 第2節 調査の方法 | 1 |
| 第3節 調査の経緯 | 3 |
| 第2章 遺跡周辺の環境 | 4 |
| 第3章 調査の成果 | 7 |
| 第1節 平安時代の出土遺構と遺物 | 7 |
| 第2節 縄文時代の出土遺構と遺物 | 14 |
| 第3節 遺構外の出土遺物 | 17 |
| 第4章 調査のまとめ | 21 |

第1章 調査の概要

第1節 調査要項

1 調査目的

五所川原須恵器窯跡群の一支群である原子窯跡支群の内、HK 5号窯に隣接する集落跡の調査を通じて、須恵器製作時期の集落のあり方を解明する。

2 発掘調査期間……平成14年7月22日～平成14年8月30日

3 遺跡名及び所在地……紅葉遺跡（青森県遺跡台帳番号 05-012）

五所川原市原子字紅葉285-7、外

4 調査面積……163平方メートル

5 調査担当機関……五所川原市教育委員会

6 調査体制

調査指導員 五所川原須恵器窯跡群発掘調査整備検討委員

村越 潔（青森大学教授）

藤沼 邦彦（弘前大学人文学部教授）

西村 康（独立行政法人 奈良文化財研究所）

小松 正夫（秋田市教育委員会）

工藤 清泰（浪岡町教育委員会）

調査担当者 五所川原市教育委員会

教育長 原田 信夫

教育部長 外崎 武徳

生涯学習課

課長 川村 喜代一

課長補佐 柴谷 和夫

係長 佐藤 文孝

主任 藤原 弘明

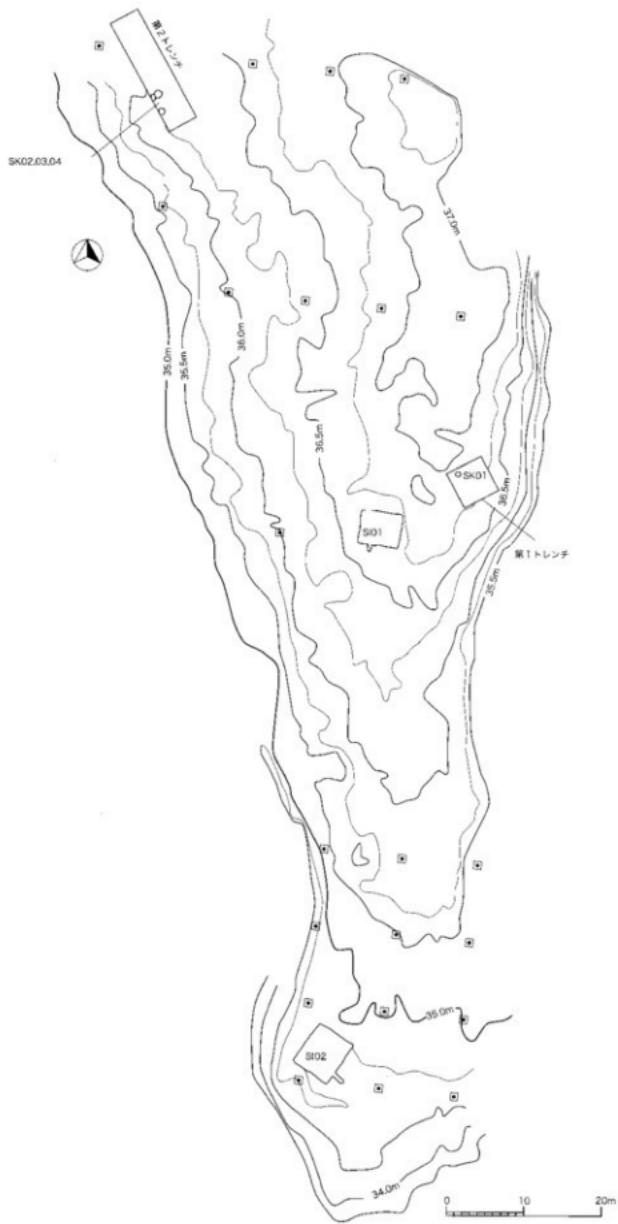
調査補助員 工藤 雄美、太田 真太郎、其田 香保里、坂本 光太郎

第2節 調査の方法

測量調査の際、国土座標を設置しており、その座標を基準にして試掘トレンチを設定した。第1トレンチは、磁気探査の調査範囲のはば中央東側に 5×5 mで設定し、第2トレンチは調査区の北側に 3×15 mのトレンチを設定した。また竪穴住居跡に関してはグリッドは設定せず、必要に応じて国土座標により実測した。

遺構の実測は二分法及び四分法で行い、遺構の実測は遺り方測量及びトータルステーションを使用した。縮尺は20分の1を基本とし、必要に応じて50分の1及び10分の1を使用した。

遺構番号は、各遺構ごとに對応する表記を用い、遺構の発見順に番号を付した。遺構に用いた表記は、SI



第1図 紅葉遺跡調査区位置図

(竪穴住居跡)、SK(土壤)、SP(柱穴)、pit(小穴)である。

第3節 調査の経緯

平成12年

10月6日～10月17日…紅葉遺跡全体の地形測量を行う(第1図)。地形測量の結果、無数の竪穴住居跡と考えられる凹みが検出された。

10月23日～27日…奈良文化財研究所の西村康氏指導の下、紅葉遺跡の南側(全体の約1/3)のレーダ・磁気探査を行う。

平成13年

5月31日～6月2日…奈良文化財研究所の西村康氏指導の下、紅葉遺跡の中程(全体の約1/3)のレーダ・磁気探査を行う。

10月29日～11月1日…奈良文化財研究所の西村康氏指導の下、紅葉遺跡の北側(全体の約1/3)のレーダ・磁気探査を行う。

12月9日…五所川原市須恵器窯跡群発掘調査整備検討委員会において、紅葉遺跡の竪穴群が須恵器工人の工房跡の可能性が高いとし、平成14年度に試掘調査を実施することが決まる。

平成14年

7月10日～14日…奈良文化財研究所の西村康氏指導の下、紅葉遺跡の南側(全体の約1/3)のレーダ・磁気探査を遺構があると考えられる場所を中心に行う。

7月22日・23日…西村氏の助言により、試掘箇所を設定し、発掘調査を開始する。第1トレンチと第2トレンチ(以下SI01という)に分かれて調査を開始する。表土を除去し、遺構の確認を行う。

7月24日…第1トレンチでフラスコ状土壙(SK01)が確認され、土層の堆積状況を確認しながら掘り下げた。またSI01の調査に入り、黒色土層の広がりを確認し、ベルトを設定して、遺構内を掘り下げた。

7月25・26日…引き続きSI01では住居の床面及び壁面の検出に努めた。SK01では床面直上より後期前葉と考えられる遺物が出土したため、写真撮影及び平面図の作製を行い、作業は終了した。

7月27日…SI01のベルトの写真撮影終了後、セクション図を作製する。それと併行してカマドのソデの検出に努める。

7月28日…SI01のカマドの写真撮影及びセクション図の作製を行い全体のクリーニングを行った後午前中で作業を終了した。午後より検討委員の方々に見ていただき、指導していただく。その結果、もう1棟住居跡の検出を行うことになった。

7月30日…SI01のカマドの煙道部を断ち割り堆積状況を確認した後、全体をクリーニングして、カマドの完掘状況の写真撮影を行った後、カマド及び全体の平面図を作製した。第2トレンチでの作業を開始し、表土層の除去を行う。

8月1日…SI01の写真撮影を行う。第2トレンチでは表土除去後土壙が検出される。午後より、雨天のため室内にて遺物の水洗作業を行う。

8月2日…SI02の表土除去後プランを確認し、検出面の写真撮影を行う。第2トレンチでは土壙の掘りさげを行い、セクション図の作製及び完掘状況の写真撮影を行う。

8月9・20日…SI02にベルトを設定し、掘り下げる。第2トレンチでは土壙の平面図の作製を行う。

8月21日…SI02の床面までの掘り下げ終了後、ベルトの写真撮影及びセクション図を作製する。

8月22日…SI02のセクションベルト除去後、壁溝の掘り下げ、及びカマドの検出を行う。

8月23日…SI02のカマドの平面図及びセクション図を作製する。また住居内にある古い住居の壁溝の掘り下げを行う。

8月27・28日…SI02のクリーニング及び完掘状況の写真撮影を行った後、平面図の作製を行う。

8月30日…各レンチ及びSI01・SI02の埋め戻しを行い作業は終了した。

第2章 遺跡周辺の環境

紅葉遺跡のある原子地域は、五所川原市街地の東方、梵珠山地の南西端に位置している(第2図)。この山地の南端には馬ノ神山(549m)、梵珠山(468m)、鐘撞堂山(313m)などの山稜があって、全体として馬ノ神山を中心としてドーム状の構造を呈している。この馬ノ神山ドームを弧状に取り囲むようにして外縁部に緩やかに南へ傾斜する大沢迦丘陵が開析の進んだ平坦な丘陵地として展開している。大沢迦丘陵の縁辺には平行して前田野目台地が展開している。前田野目台地は標高約20~110mで、面の高度、開析度、構成層などから高位、中位、低位の三つの段丘面に区分されている。

高位段丘面は標高50~70mであり、長橋溜池東方から原子溜池東方へと南南東方向へと伸び、狼ノ長根公園一帯、前田野目中央部、浪岡町杉沢東方まで続いている。開析が進み起伏に富んだ地形を呈するが、頂部には平滑な面が認められる。この段丘面は八甲田第1期火碎流堆積物と上位に堆積する堅石質砂・シルト・粘土などを主体とする前田野目層により構成されている。

中位段丘は標高30~50mであり、等高線の配置が平野部とほぼ平行であるが、その間隔は平野と比較して狭くなっている。五所川原市境山から豊成東方にかけては100分の4とやや勾配のある傾斜面であり、浪岡町花岡付近では100分の2と緩傾斜面である。この段丘面は五所川原付近では成層した細粒砂・シルトを、浪岡付近では淘汰不良な砂礫層により構成されている。

低位段丘面は標高20~30mであり、中位段丘面にほぼ連続しており、平野縁辺部に1~2kmの幅で分布している。五所川原市野里から豊成付近にかけては、標高20~25mで、勾配100分の1とやや平坦であり、浪岡町郷山前から吉野田付近にかけては、標高25~40mとやや高く、100分の2と勾配も認められる。この段丘面は淘汰不良な細礫混じりの粗砂を主体とした腐食質粘土の薄い層を挟む湿地性堆積物により構成されている。

紅葉遺跡はこの前田野目台地の中位段丘面に位置しており、原子溜池に流入する2本の小河川に挟まれた舌状台地上に位置する。この台地を挟む2つの谷は開析が進みいずれも急峻である。この地域周辺の遺跡としては、原子溜池(1)~(5)遺跡や、山道溜池遺跡が存在し、いずれも縄文時代から古代にかけての遺跡である。また中世の遺跡として原子城があげられる。

原子溜池(1)遺跡では、1972年に青森県教育委員会及び五所川原市教育委員会により発掘調査がなされ、縄文時代前期前葉から後期前葉の十腰内式の土器が出土している。市史編纂事業の一環として原子溜池(2)遺跡では、縄文時代前期末葉から後期初頭の土器及び前期から後期の土偶、平安時代の土師器・須恵器が採集されている。原子溜池(3)遺跡では平成10年度より五所川原須恵器窯跡群の分布調査を行っているが、その調査の結果、須恵器の窯跡が1基確認されている。原子溜池(4)・(5)遺跡では、五所川原市教育委員会に



第2図 紅葉遺跡調査区位置図

(この図は国土地理院発行50000分の1地図「青森西部」に加筆して作製したものである)

より調査が行われており、縄文時代前期中葉から後期中葉の土器、平安時代の土師器・須恵器が出土している。造構としては土器製作時に使用したと考えられるロクロビットが検出されている。山道溜池遺跡では上述した分布調査を行っているが、その調査の結果、縄文時代前期後葉～後期前葉の土器が採集され、平安時代の須恵器の窯跡が3基確認されている。今回調査する紅葉遺跡では、分布調査の結果舌状台地の先端部に須恵器の窯跡が1基確認されている。

このように原子地区では縄文時代前期初頭から集落が営まれ始め、平安時代まで同一の場所で集落が形成

第2表 紅葉跡周辺の遺跡地名表

| 地名番号 | 遺跡番号 | 遺 跡 名 | 所 在 地 | 時 代 | 種 別 | 備 考 |
|------|-------|-------------|-----------------|--------------|---------|-----------------------|
| 1 | 05041 | 金山小道跡 | 五所川原市金山字平代鶴 | 古代、中世 | 散布地 | |
| 2 | 05029 | 金山小道跡 | 五所川原市金山字平代鶴 | 平安 | 散布地 | |
| 3 | 05001 | 長子森小道跡 | 五所川原市鶴野字花笠 | 平安、中世 | 散布地、散跡 | |
| 4 | 05056 | 中子小道跡 | 五所川原市鶴野大字子 | 平安 | 散布地 | |
| 5 | 05081 | 寒井遺跡 | 五所川原市水野原大字井 | 平安 | 散布地 | |
| 6 | 05081 | 松尾遺跡 | 五所川原市小糸字松尾 | 鷹文、旁生、平安、中世 | 散布地 | |
| 7 | 05002 | 飯豆遺跡 | 五所川原市鶴野字平花笠 | 平安、中世 | 散跡、散跡 | |
| 8 | 05042 | 神山遺跡 | 五所川原市鶴野字神野 | 平安 | 散布地 | |
| 9 | 05025 | 燒山遺跡 | 五所川原市鶴野字燒山 | 平安 | 散布地 | |
| 10 | 05045 | 鶴野遺跡 | 五所川原市鶴野字鶴野 | 鷹文 | 散布地 | |
| 11 | 05007 | 野里遺跡 | 五所川原市鶴野字野里 | 鷹文（後、晚）、平安 | 散跡、散跡 | |
| 12 | 05054 | 色内遺跡 | 五所川原市鶴野字色内 | 鷹文（後）、平安 | 散布地 | |
| 13 | 05088 | 広庭遺跡 | 五所川原市鶴野字色吉 | 平安 | 散布地 | |
| 14 | 05013 | 砂田遺跡 | 五所川原市前田日字砂田 | 平安 | 散布地 | |
| 15 | 05009 | 所田野日山（5）遺跡 | 五所川原市前田野日山 | 平安 | 史跡 | MID 3 + 17号窓 |
| 16 | 05008 | 所田野日山（4）遺跡 | 五所川原市前田野日山 | 平安 | 史跡 | MID 18号窓 |
| 17 | 05058 | 野手遺跡 | 五所川原市前田野手 | 平安 | 史跡 | MID 16号窓 |
| 18 | 05053 | 田了（浦瀬跡） | 五所川原市了字浦瀬 | 平安、中世 | 散布地 | |
| 19 | 05063 | 松代遺跡 | 五所川原市松代字松代 | 鷹文、平安 | 散布地 | |
| 20 | 05040 | 原子（源池）（5）遺跡 | 五所川原市原子字原池 | 鷹文（前）、中世 | 散布地 | |
| 21 | 05012 | 高瀬遺跡 | 五所川原市高瀬字高瀬 | 鷹文（前）、中世 | 散布地 | |
| 22 | 05039 | 原子（源池）（4）遺跡 | 五所川原市原子字原池 | 鷹文（前）、平安 | 散跡、遺跡 | HK 5 + 6号窓 |
| 23 | 05006 | 原子城跡 | 五所川原市原子字原 | 平安 | 散布地、遺跡 | HK 1号窓 |
| 24 | 05001 | 原子（源池）（3）遺跡 | 五所川原市原子字山元 | 鷹文（前、中、後） | 散布地 | |
| 25 | 05005 | 原子（源池）（2）遺跡 | 五所川原市原子字山元 | 鷹文（中） | 散布地 | |
| 26 | 05010 | 山原遺跡 | 五所川原市原子字山元 | 平安 | 史跡 | |
| 27 | 05003 | 原子（源池）（1）遺跡 | 五所川原市原子字山元 | 鷹文（前、中、後）、平安 | 史跡 | |
| 28 | 05017 | 鶴（大志）遺跡 | 五所川原市鶴字大志 | 平安 | 史跡 | |
| 29 | 05091 | 大走（3）遺跡 | 五所川原市前田野日字大走 | 平安 | 史跡 | MID 6号窓 |
| 30 | 05051 | 大走（1）遺跡 | 五所川原市前田野日字大走 | 平安 | 史跡 | MID 7号窓 |
| 31 | 05093 | 砂山遺跡 | 五所川原市前田野日字砂山 | 平安 | 散布地 | |
| 32 | 05094 | 砂山（2）遺跡 | 五所川原市前田野日字砂山 | 平安 | 史跡 | MID 11号窓 |
| 33 | 05006 | 前田野日山（1）遺跡 | 五所川原市前田野日字前田野日山 | 平安 | 史跡 | MID 12号窓 |
| 34 | 05015 | 野野原跡 | 五所川原市前田野日字前田野日山 | 平安 | 史跡 | MID 13号窓 |
| 35 | 05056 | 前田野日山（2）遺跡 | 五所川原市前田野日字前田野日山 | 平安 | 史跡 | MID 14号窓 |
| 36 | 05011 | 砂山遺跡 | 五所川原市砂山字砂山 | 平安 | 史跡 | MID 1 + 2 + 3号窓 |
| 37 | 05014 | 砂山（2）遺跡 | 五所川原市砂山字砂山 | 平安 | 史跡 | MID 4 + 5号窓 |
| 38 | 05090 | 尖石遺跡 | 五所川原市原子字尖石 | 平安 | 散布地 | |
| 39 | 05080 | 陶熊（8）遺跡 | 五所川原市原子字木底陶熊 | 平安、近世 | 散布地 | |
| 40 | 05071 | 陶熊（2）遺跡 | 五所川原市原子字木底陶熊 | 鷹文、平安 | 散布地 | |
| 41 | 05076 | 陶熊（3）遺跡 | 五所川原市原子字木底陶熊 | 鷹文、平安 | 散布地 | |
| 42 | 05075 | 陶熊（3）遺跡 | 五所川原市原子字木底陶熊 | 鷹文、平安 | 散布地 | |
| 43 | 05069 | 鶴川（9）遺跡 | 五所川原市原子字六糸鶴川 | 鷹文 | 散布地 | |
| 44 | 05066 | 鶴川（8）遺跡 | 五所川原市原子字六糸鶴川 | 鷹文、平安 | 散布地 | |
| 45 | 05078 | 尾無（1）遺跡 | 五所川原市原子字木底尾無 | 鷹文、平安 | 散布地 | |
| 46 | 05077 | 尾無（5）遺跡 | 五所川原市原子字木底尾無 | 鷹文 | 散布地 | |
| 47 | 05078 | 尾無（6）遺跡 | 五所川原市原子字木底尾無 | 鷹文 | 散布地 | |
| 48 | 05071 | 尾原（11）遺跡 | 五所川原市原子字木底尾原 | 鷹文、平安 | 散布地 | |
| 49 | 05079 | 坂戻（7）遺跡 | 五所川原市原子字木底坂戻 | 鷹文 | 散布地 | |
| 50 | 05070 | 坂戻（10）遺跡 | 五所川原市原子字木底坂戻 | 鷹文、平安 | 史跡、散布地 | MZ 7号窓 |
| 51 | 05072 | 鶴川（12）遺跡 | 五所川原市原子字木底鶴川 | 鷹文 | 散布地 | |
| 52 | 05028 | 鶴川（1）遺跡 | 五所川原市原子字木底鶴川 | 鷹文（中、後）、平安 | 史跡、散布地 | MZ 6号窓 |
| 53 | 05023 | 子母子（RC）遺跡 | 五所川原市原子字木底子母子 | 平安 | 史跡 | MZ 2号窓 |
| 54 | 05024 | 子母子（D）遺跡 | 五所川原市原子字木底子母子 | 平安 | 史跡 | MZ 4 + 19 + 11 + 12号窓 |
| 55 | 05021 | 子母子（P-A）遺跡 | 五所川原市原子字木底子母子 | 平安 | 史跡 | MZ 1号窓 |
| 56 | 05022 | 子母子（P-B）遺跡 | 五所川原市原子字木底子母子 | 平安 | 史跡 | MZ 2号窓 |
| 57 | 05064 | 礎原（4）遺跡 | 五所川原市原子字木底礎原 | 平安 | 散布地 | |
| 58 | 05065 | 丸川（3）遺跡 | 五所川原市原子字木底丸川 | 平安、近世 | 散布地 | |
| 59 | 05062 | 丸川（2）遺跡 | 五所川原市原子字木底丸川 | 平安、近世 | 散布地 | |
| 60 | 05061 | 丸川（2）遺跡 | 五所川原市原子字木底丸川 | 平安、近世 | 散布地 | |
| 61 | 05013 | 古山遺跡 | 五所川原市原子字木底古山 | 平安 | 史跡 | |
| 62 | 05060 | 坂戻（3）遺跡 | 五所川原市原子字木底坂戻 | 鷹文、平安 | 散山道 | |
| 63 | 05009 | 坂戻（1）遺跡 | 五所川原市原子字木底坂戻 | 鷹文、平安 | 散山道、散布地 | SM 1 + 2号窓 |
| 64 | 05039 | 坂戻（2）遺跡 | 五所川原市原子字木底坂戻 | 鷹文、平安 | 散山道 | |
| 65 | 29049 | 山本遺跡 | 波崎町波才字山本 | 平安 | 散布地 | |
| 66 | 29001 | 横山川遺跡 | 波崎町波才字早稻田 | 平安 | 散布地 | |
| 67 | 05019 | 坂戻長根遺跡 | 五所川原市原子字木底坂戻 | 鷹文（晩）、平安 | 散山道 | |
| 68 | 34005 | 二宅館 | 板柳町五糸字二宅 | 中世 | 史跡 | |
| 69 | 34006 | 丸子子遺跡 | 板柳町五糸字丸子子 | 鷹文 | 散山道 | |
| 70 | 05066 | 蘭川（6）遺跡 | 五所川原市原子字木底蘭川 | 鷹文、平安 | 散山道 | |
| 71 | 05018 | 丸子子遺跡 | 五所川原市原子字丸子子 | 鷹文、平安、中世 | 散布地、散跡 | |
| 72 | 05067 | 蘭川（7）遺跡 | 五所川原市原子字丸子子 | 平安、近世 | 散布地 | |
| 73 | 05065 | 蘭川（5）遺跡 | 五所川原市原子字丸子子 | 鷹文 | 散布地 | |
| 74 | 05005 | 川越遺跡 | 五所川原市原子字川越 | 鷹文、平安 | 散布地 | |
| 75 | 29060 | 野原（1）遺跡 | 波崎町高所野原字野原 | 平安 | 散山道 | |
| 76 | 29065 | 野原（4）遺跡 | 波崎町高所野原字野原 | 引文 | 集落跡 | |
| 77 | 29061 | 野原（2）遺跡 | 波崎町高所野原字野原 | 平安 | 散布地 | |
| 78 | 29067 | 板柳野山遺跡 | 波崎町沿字板柳野山 | 平安 | 散布地 | |
| 79 | 34003 | 土井（3）遺跡 | 板柳町收穫字土井 | 鷹文（後、晩） | 散布地 | |
| 80 | 34004 | 土井（4）遺跡 | 板柳町板柳字土井 | 鷹文（晩） | 散布地 | |
| 81 | 34005 | 武田遺跡 | 板柳町竹森字物泊 | 平安、近世 | 散山道 | |

| | | | | | | |
|-----|-------|-------------|------------------|------------|-----|--------|
| 82 | 29007 | 小山遺跡 | 須磨町吉野出字平野 | 鴨文(小、後)、平安 | 散布地 | |
| 83 | 29008 | 須沢遺跡 | 須磨町吉野出字豊沢 | 鴨文(前) | 散布地 | |
| 84 | 29006 | 無(2)遺跡 | 須磨町吉野出 | 平安 | 散布地 | |
| 85 | 29004 | 下平遺跡 | 須磨町吉野出 | 平安 | 散布地 | |
| 86 | 29005 | 無(1)遺跡 | 須磨町吉野出字木戸43 | 平安 | 散布地 | |
| 87 | 29009 | 中屋敷半遺跡 | 須磨町吉野出字越沢 | 平安 | 散布地 | |
| 88 | 29002 | 野尻(3)遺跡 | 須磨町須磨敷字野尻 | 平安、中世、五世 | 散布地 | |
| 89 | 29003 | 高川遺跡遺跡 | 須磨町高屋敷字野尻 | 平安 | 散布地 | |
| 90 | 29054 | 山元(1)遺跡 | 須磨町芥子山元 | 鴨文、平安 | 散布地 | |
| 91 | 29055 | 山元(2)遺跡 | 須磨町芥子山元 | 平安 | 散布地 | |
| 92 | 29056 | 山元(3)遺跡 | 須磨町芥子山元 | 鴨文、平安 | 散布地 | |
| 93 | 34006 | 平塚遺跡 | 板宿町平塚字下塙 | 平安 | 散布地 | |
| 94 | 29010 | 永保寺遺跡 | 須磨町福山前字永保 | 鴨文(前、後) | 散布地 | |
| 95 | 29009 | 鶴居山遺跡 | 須磨町鶴居山字平尾 | 平安 | 散布地 | |
| 96 | 29011 | 上野遺跡 | 須磨町坪尻字村元 | 鴨文(中、後)、平安 | 散布地 | |
| 97 | 34010 | 庵井村 | 板宿町野井越字穂木 | 中世 | 散布地 | |
| 98 | 29013 | 山桜遺跡 | 須磨町坪尻字村元 | 鴨文(後) | 散布地 | |
| 99 | 29012 | 神明堂遺跡 | 須磨町耶少野出 | 鴨文(前、後) | 散布地 | |
| 100 | 29051 | 須村(杉庭館、尾林館) | 須磨町須字杉庭、土ノ野 | 中世 | 城跡 | |
| 101 | 29015 | 大林遺跡 | 須磨町動字杉山 | 平安 | 散布地 | |
| 102 | 29058 | 杉田遺跡 | 須磨町動字杉田 | 平安 | 散布地 | |
| 103 | 29014 | 長瀬寺遺跡 | 須磨町松枝字野瀬 | 鴨文(中、後)、平安 | 散布地 | |
| 104 | 29018 | 大沢遺跡(新の堀) | 須磨町大沢高字子田 | 中世 | 城跡 | |
| 105 | 06007 | 前田野口山(3)遺跡 | 五所田原市前田野口山字前田野口山 | 平安 | 古跡 | MD15号室 |
| 106 | 05002 | 應川(13)遺跡 | 五所田原市子供子沢字應川 | 平安 | 古跡 | MD23号室 |

されていたと考えられる複合遺跡が殆どを占めている。その後中世になると原子城が築城されることになる。いずれの遺跡に関しても近隣に開析が進んだ河川に沿う台地上の平坦部を利用している点が共通の立地条件となっている。

第3章 調査の成果

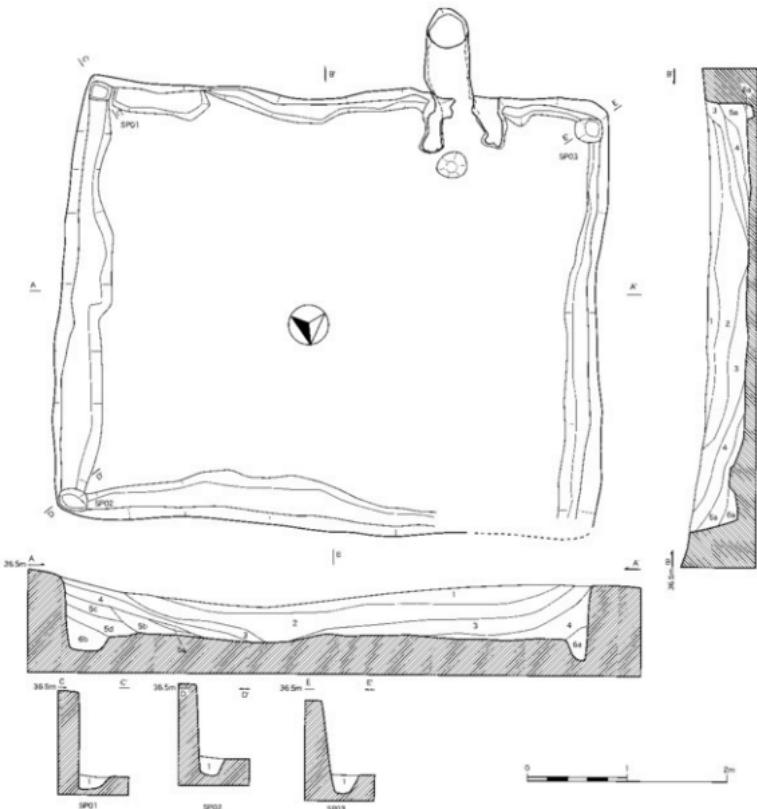
第1節 平安時代の出土遺構と遺物

1. 第1号竪穴住居跡(SI01)

磁気・レーダ探査の調査区のはば中央部に位置し、凹地状になっており、地表面において確認されていたものである。調査の結果第3図に示すように長軸537cm、短軸434.5cmの長方形を呈する。壁溝はほぼ周囲を巡り、広いところでは幅41cm、狭いところでは11cmを測る。柱穴は壁溝内の各隅の3か所で確認された。

カマドは南壁の東南よりに位置し、半地下水式の煙道部をもち、壁面及び煙出穴部は粘土により補強されている(第4図)。ソデは短くわずかに外に開く形状を呈し、芯材として軟質の凝灰岩ブロックを利用している。支脚が検出しており、土師器の小形甕の体部下半～底部の部分を倒立させて使用していた。カマドの使用状況は、火床面の形成が未発達な点とソデとして使用されている粘土が軟質な点から、あまり使用されていないものと考えられる。

本住居跡からの出土遺物は極めて少なく、土師器の壺、支脚として利用されていた土師器の小形甕が出土している(第7図-1・2)。壺(第7図-1)はほぼ完形で、底部からゆるやかに内彎しながら立ち上がり口縁部がやや外彎する器形である。調整は内外面ともロクロナデ調整であり、底面は回転糸切痕を残している。内外面には火熱を受けたと考えられる黒斑や焼けはじけの痕跡がある。支脚として利用されていた小型甕(第7図-2)は上述したように体部下半から底部にかけての個体であり、全体の器形は不明である。体部にはケズリが施され、内面はカキメ(強いケズリ)が施され器厚を薄くする調整が施されている。底面に調整は施されておらず、砂底である。



SI01

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|----------------|----|-----|--|
| 1 | 10YR2/1 黒褐色 | 弱 | 弱 | 特になし。 |
| 2 | 10YR1.7/1 黒褐色 | 弱 | 弱 | 直徑1~3mmのローム粒を極微量含む。 |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 中 | 中 | 直徑1~3mmのローム粒を極微量含む。 |
| 4 | 10YR3/3 砂褐色 | 中 | 中 | 直徑5~20mmのローム粒を少量含む。堆山の転移層。 |
| 5a | 10YR4/3 にぼい黄褐色 | 中 | 中 | 直徑10~40mmのローム粒を中量含む。壁の崩落と記される。 |
| 5b | 10YR4/4 棕色 | 中 | 中 | 直徑1~10mmのローム粒を多量に含む。 |
| 5c | 10YR3/4 暗褐色 | 弱 | 弱 | 直徑1~3mmのローム粒を少量、直徑3mm程度のロームブロックを局所的に含む。 |
| 5d | 10YR3/3 暗褐色 | 弱 | 弱 | 直徑3mm以下のローム粒を多量、直徑10~30mmのロームブロックを多量に含む。 |
| 6a | 10YR4/4 棕色 | 弱 | 弱 | 直徑10~40mmのロームブロックを多量に含む。厚さ4cm。 |
| 6b | 10YR4/4 棕色 | 中 | 弱 | 直徑10~50mmのロームブロックを多量、直徑10~100mmの内包粒上ブロックを少量含む。壁剥離。 |
| 7 | 10YR5/1 黒褐色 | 弱 | 弱 | 表土埋込みの帶。根による流れ込みか。 |

SI01 SP01

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|------------|----|-----|--------------------------|
| 1 | 10YR4/4 棕色 | 弱 | 弱 | 直徑10~40mmのロームブロックを多量に含む。 |

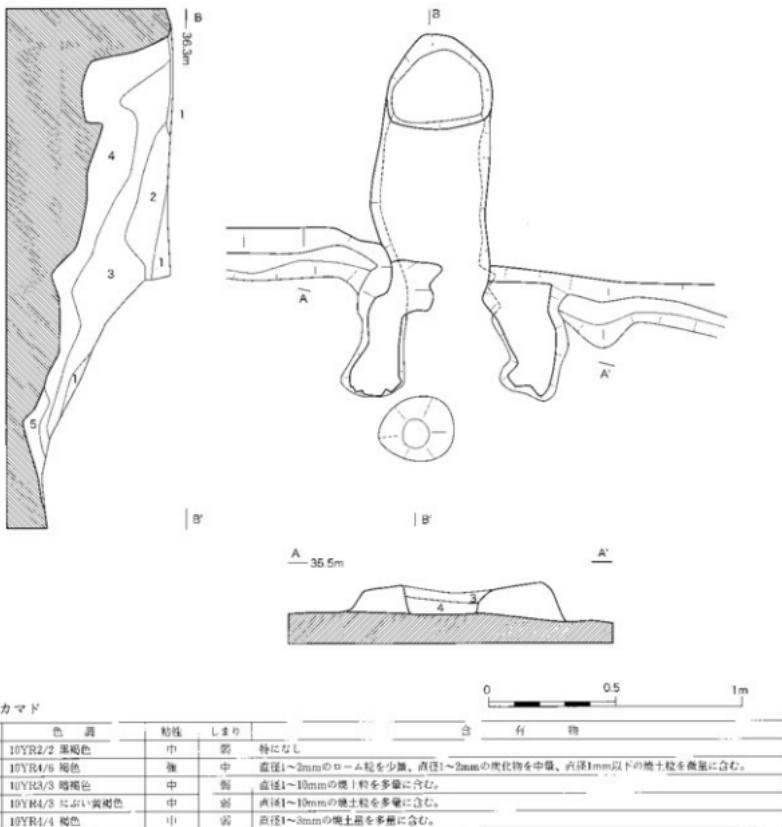
SI01 SP02

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|------------|----|-----|--|
| 1 | 10YR4/4 棕色 | 中 | 弱 | 直徑10~50mmのロームブロックを多量、直徑10~100mmの内包粒上ブロックを少量含む。 |

SI02 SP03

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|------------|----|-----|--------------------------|
| 1 | 10YR4/4 棕色 | 弱 | 弱 | 直徑10~10mmのロームブロックを多量に含む。 |

第3図 SI01 検出状況

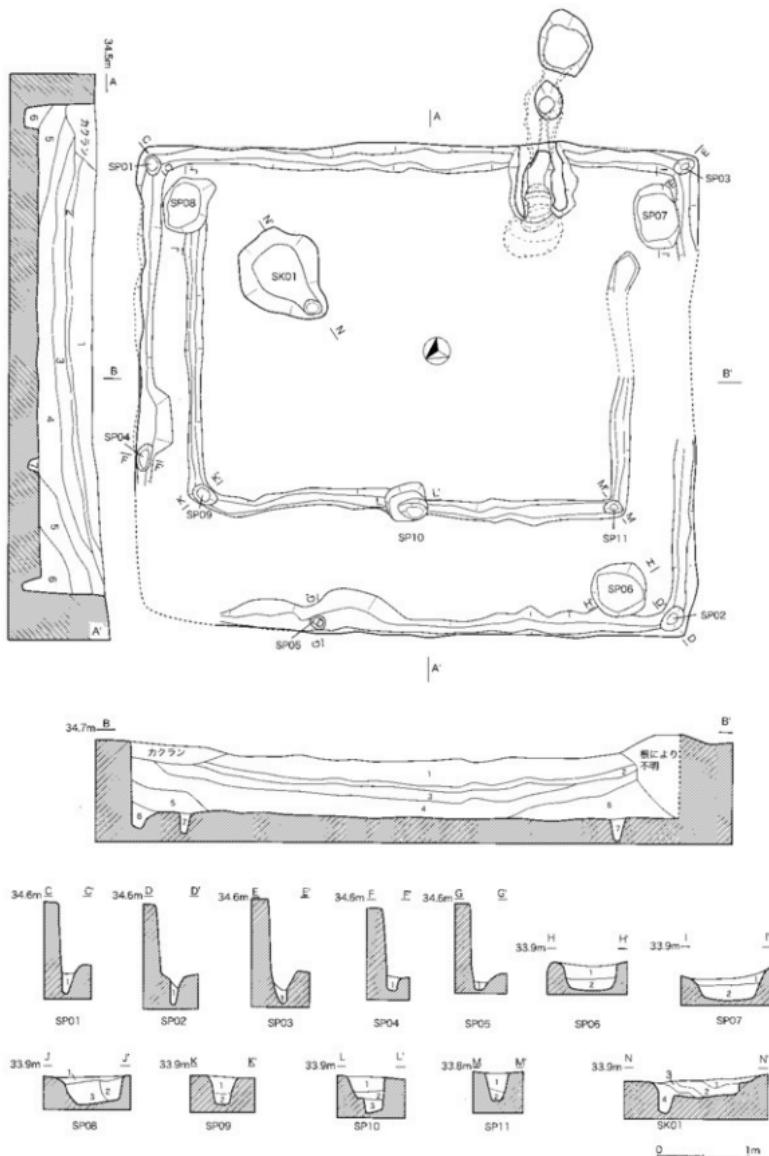


第4図 SI01 カマド検出状況

2. 第2号竪穴住居跡(SI02)

磁気・レーダ探査の調査区南端に位置し、凹地状になっており、地表面において確認されていたものである。調査の結果第5図に示すように、建替えが行われており、古い住居跡は、長軸486cm、短軸416cmの長方形を呈する。壁溝は一部確認されなかつたがほぼ周囲を巡り、広いところでは幅28.5cm、狭いところでは11.5cmを測る。柱穴は各隅及び壁溝内の3か所で確認された(SP09~11)。新しい住居跡は、長軸616cm、短軸541cmの長方形を呈する。壁溝はほぼ周囲を巡り、広いところでは幅43cm、狭いところでは13.5cmを測る。柱穴は各隅及び壁溝内の5か所確認され(SP01~05)、同一規模での建替えと考えられる古い柱穴が住居の各隅の3か所で確認された(SP06~08)。また床面から土壤(柱穴か?)が1基確認された(SK01)。

カマドはSI01と同様に半地下式の煙道部を持ち、天井部及び壁面は粘土により構築されていた(第6図)。煙出しのピットは2か所確認され、壁面に近いピットは直軸約43cm、短軸36cmの不整橢円形を呈し、壁面より遠いピットは長軸76cm、短軸61cmの不整橢円形を呈する。ソデはほぼ平行に走り、SI01とは異なり、使用頻度が高いためか硬質であった。



第5図 SI02 検出状況

SI02

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|--------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YR1/7/1 黒色 | 弱 | 中 | 直徑1mm以下のローム粒を微量、直徑1~5mmのローム粒を多量に含む。 |
| 2 | 10YR2/2 茶褐色 | 中 | 弱 | 直徑1mm以下のローム粒を微量、直徑1~5mmのローム粒を多量に含む。 |
| 3 | 10YR4/4 褐色 | やや弱 | 弱 | 直徑1~2mmのローム粒を少量、直徑1~5mmの炭化物を微量に含む。 |
| 4 | 10YR3/3 茶褐色 | 中 | 弱 | 直徑1~9mmのローム粒を少量、直徑1~5mmの炭化物を微量に含む。 |
| 5 | 10YR4/4 褐色 | 弱 | やや弱 | 直徑1~9mmのローム粒を少量、直徑1~5mmの炭化物を微量に含む。 |
| 6 | 10YR4/6 褐色 | 中 | 中 | 直徑1~8mmのローム粒を少量、直徑1~3mmの炭化物を少量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量に含む。堅溝土。 |
| 7 | 10YR4/4 褐色 | 弱 | 強 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑1~2mmの炭化物を少量、直徑1~5mmの粘土を多量、直徑10~50mmの粘土ブロックを少量に含む。堅溝土。 |

SI02 SP01

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|----|-----|---|
| 1 | 10YR3/3 茶褐色 | 強 | やや強 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量に含む。 |

SI02 SP02

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YR3/4 茶褐色 | やや強 | 弱 | 直徑1~2mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを中量、直徑10~20mmの粘土ブロックを多量に含む。 |

SI02 SP03

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|------------|----|-----|--|
| 1 | 10YR4/4 褐色 | 弱 | 強 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~30mmのロームブロックを多量、直徑10~50mmの炭化物を少量含む。 |

SI02 SP04

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|----|-----|---|
| 1 | 10YR3/3 茶褐色 | 強 | やや強 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量に含む。 |

SI02 SP05

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YH3/4 茶褐色 | やや強 | 弱 | 直徑1~2mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを中量、直徑10~20mmの粘土ブロックを多量に含む。 |

SI02 SP06

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YR5/6 茶褐色 | 弱 | やや弱 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを中量、直徑1~9mmの粘土粒を多量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量、直徑1~9mmの炭化物を少量、直徑1~5mmの炭化物を微量、直徑1~5mmの第一級鉄化鉱を少量含む。 |
| 2 | 10YR4/6 褐色 | やや強 | 弱 | 直徑1~9mmのローム粒を少量、直徑10~30mmのロームブロックを中量、直徑1~9mmの粘土粒を中量、直徑10~30mmの粘土ブロックを中量、直徑1~9mmの炭化物を少量、直徑1~9mmの第二級鉄化鉱を少量含む。 |

SI02 SP07

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|------------|-----|-----|---|
| 1 | 10YR4/4 褐色 | やや弱 | やや弱 | 直徑1~9mmのローム粒を微量、直徑10~50mmのロームブロックを少量、直徑1~5mmの粘土粒を微量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量、直徑1~9mmの炭化物を微量、直徑1~5mmの第一級鉄化鉱を微量含む。 |
| 2 | 10YR4/1 褐色 | 弱 | やや弱 | 直徑1~9mmのローム粒を微量、直徑10~20mmのロームブロックを少量、直徑1~9mmの粘土粒を微量、直徑10~30mmの粘土ブロックを少量、直徑1~9mmの炭化物を微量に含む。 |

SI02 SP08

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YH3/4 茶褐色 | やや強 | やや強 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを多量、直徑1~9mmの炭化物を中量、直徑1~9mmの粘土粒を多量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量、直徑1~9mmの第二級鉄化鉱を多量に含む。 |
| 2 | 10YR5/3 茶褐色 | 弱 | 弱 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~50mmのロームブロックを多量、直徑1~9mmの炭化物を中量、直徑1~9mmの粘土粒を多量に含む。 |
| 3 | 10YR4/4 褐色 | 弱 | 強 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~80mmのロームブロックを多量、直徑1~2mmの炭化物を微量に含む。 |

SI02 SP09

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YR4/4 褐色 | 強 | 弱 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑1~9mmの粘土粒を多量、直徑10~50mmの粘土ブロックを少量、直徑1~2mmの炭化物を微量含む。 |
| 2 | 10YR4/4 茶褐色 | やや強 | 弱 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量、直徑1~2mmの炭化物を微量含む。 |

SI02 SP10

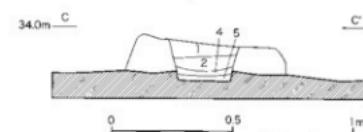
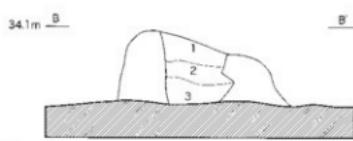
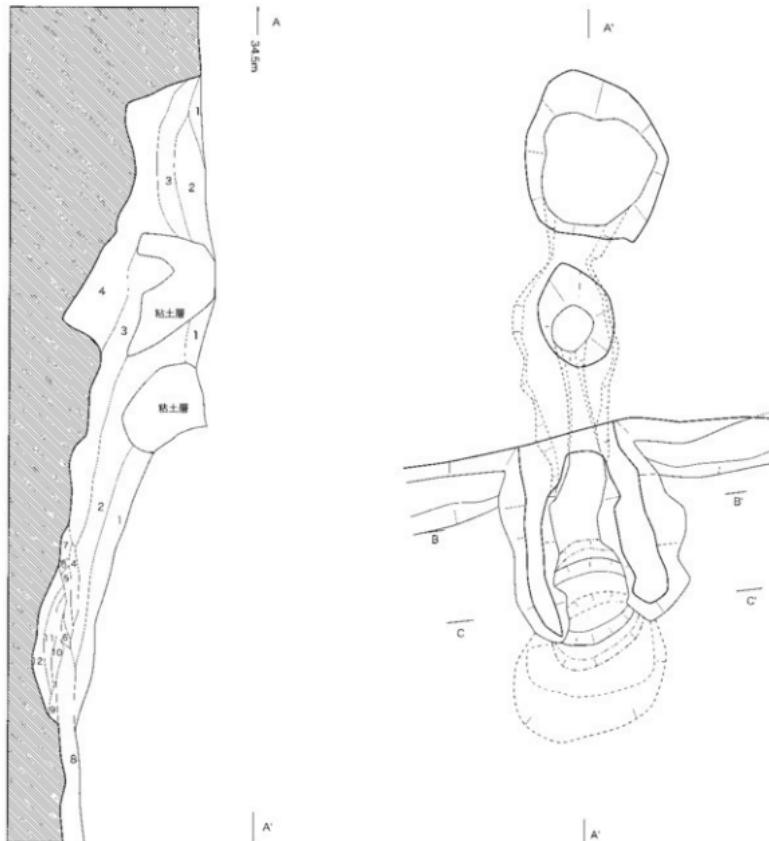
| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YR5/4 茶褐色 | やや強 | 弱 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを多量、直徑1~9mmの炭化物を中量、直徑1~9mmの粘土粒を微量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量、直徑1~9mmの第二級鉄化鉱を多量に含む。 |
| 2 | 10YR4/4 茶褐色 | 弱 | 弱 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~50mmのロームブロックを多量、直徑1~9mmの炭化物を中量、直徑1~9mmの粘土粒を微量に含む。 |
| 3 | 10YR4/4 褐色 | 強 | 強 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを多量、直徑1~2mmの炭化物を微量に含む。 |

SI02 SP11

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YH3/4 茶褐色 | やや強 | 弱 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを多量、直徑1~2mmの炭化物を微量含む。 |
| 2 | 10YR4/4 褐色 | 強 | 強 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを多量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量に含む。 |

SI02 SK01

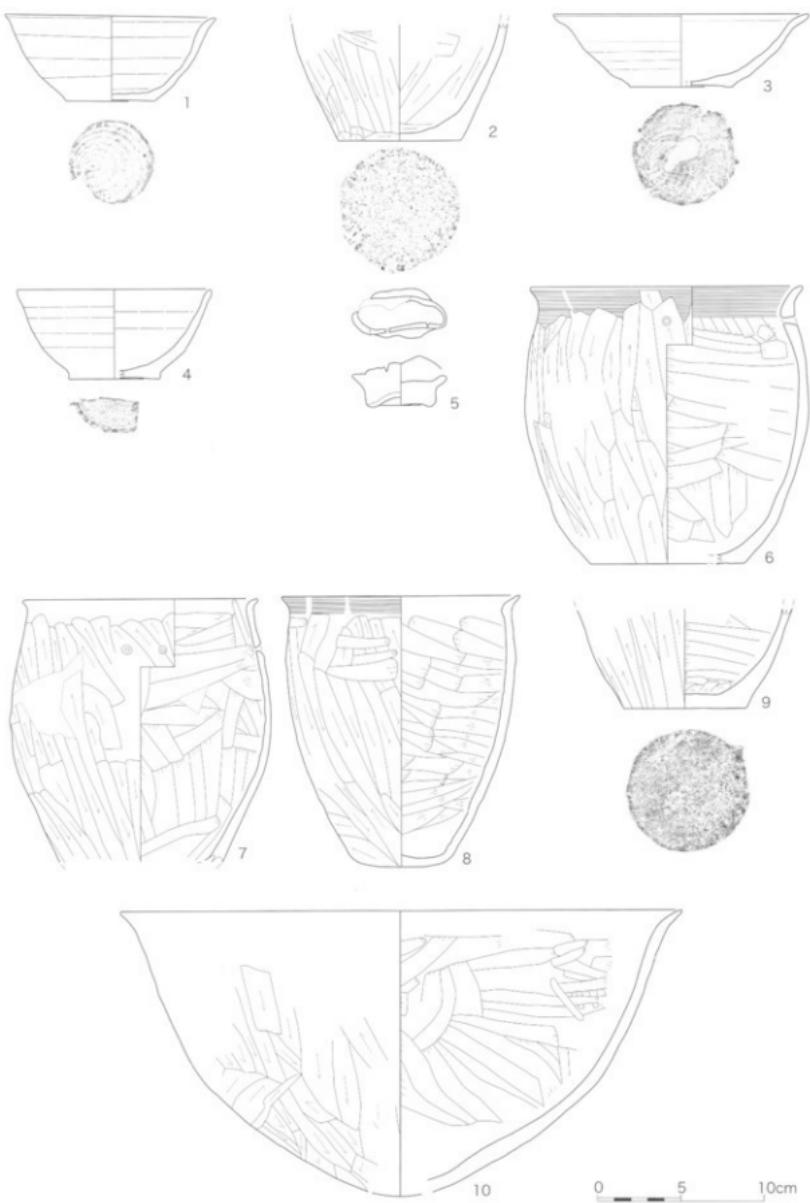
| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|----|-----|---|
| 1 | 10YR5/6 茶褐色 | 弱 | 強 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを多量、直徑1~2mmの炭化物を微量含む。 |
| 2 | 10YR3/4 茶褐色 | 強 | 強 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを中量、直徑1~2mmの炭化物を微量含む。 |
| 3 | 10YR4/4 褐色 | 弱 | 強 | 直徑1~2mmのローム粒を少量、直徑1~2mmの粘土粒を少量、直徑1~2mmの炭化物を微量含む。 |
| 4 | 10YR3/3 茶褐色 | 弱 | 強 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑1~5mmの粘土粒を少量、直徑1~9mmの炭化物を多量、直徑1~9mmの粘土粒を中量含む。 |



SI02 カマド

| 部位 | 色調 | 性状 | しまり | 食 剤 物 |
|----|---------------|-----|-----|---|
| 1 | 10YR4/1 暗色 | 弱 | 弱 | 直徑1~2mmのローム粒を中量、直徑10mm程度のロームブロックを少量、直徑1~2mmの炭化物を微量、直徑1~5mmの粘土粒を少量、直徑1~5mmの磨上粒を微量含む。 |
| 2 | 10YR3/4 暗褐色 | やや強 | 弱 | 直徑1~3mmのローム粒を少量、直徑1~2mmの炭化物を少量、直徑1~3mmの粘土粒を少量、直徑1~2mmの幾十粒を微量含む。 |
| 3 | 10YR2/2 黒褐色 | やや強 | 弱 | 直徑2mm以下のロームを少量、直徑10mm程度のロームブロックを少量、直徑1~2mmの炭化物を微量、直徑1~3mmの磨上粒を微量含む。 |
| 4 | SYR4/6 赤褐色 | 強 | 強 | 直徑1~3mmの粘土粒を多量、直徑10~50mm磨上ブロックを多量、直徑1~2mmの炭化物を少量、直徑1~5mmのローム粒を少量含む。 |
| 5 | SYR4/6 赤褐色 | 弱 | 強 | 含有物は特にない。30日の大床面 |
| 6 | SYR4/6 あるいは褐色 | やや強 | 強 | 直徑1~5mmの粘土粒を多量、直徑1~2mmの炭化物を微量含む。 |
| 7 | 10YR4/3 に近い褐色 | 弱 | 弱 | 直徑1~3mmのローム粒を多量、直徑1~2mmの炭化物を少量含む。 |
| 8 | 10YR4/3 に近い褐色 | 強 | 強 | 直徑1~9mmのローム粒を多量、直徑10~20mmのロームブロックを多量、直徑1~9mmの炭化物を多量、直徑1~2mmの粘土粒を多量含む。 |
| 9 | 10YR3/2 黑褐色 | やや強 | 弱 | 直徑1~3mmのローム粒を少量、直徑1~2mmの炭化物を少量、直徑10~50mmの磨上ブロックを多量、直徑1~5mmの粘土粒を微量含む。 |
| 10 | SYR3/6 赤褐色 | 弱 | 強 | 含有物は特にない。20日の大床面 |
| 11 | SYR4/6 赤褐色 | 弱 | やや強 | 含有物は特にない。 |
| 12 | 7.5YR4/1 細色 | やや強 | 弱 | 直徑1~5mmのローム粒を少量、直徑1~2mmの炭化物を少量、直徑10~50mmの粘土ブロックを多量、直徑1~5mmの粘土粒を中量、第一鉄化物を少量含む。 |

第6図 SI02 カマド検出状況



第7図 SI01・SI02出土遺物
(1~2: SI01、3~10: SI02)

SK01 出土遺物観察表

| 回収No. | 種別 | 器種 | 残存部位 | 出土層位 | 口径 | 器高 | 底径 | 外面調整 | 内面調整 | 底面 | 混入物 | 備考 |
|-------|-----|-----|-------|---------|------|-----|-----|------|------|------|-------------|-------|
| 第7回-3 | 土師器 | 环 | 完形 | 縄上5層 | 12.5 | 5.1 | 6.1 | ロクロ | ロクロ | 回転系切 | 石糸、黒土母 | |
| 第7回-2 | 土師器 | 小型甕 | 体部～底部 | カマド層・3層 | | 7.2 | | ケズリ | カキメ | 砂紙 | 海螺骨針、火矢、黒土母 | カマド支脚 |

SI02 出上遺物観察表

| 回収No. | 種別 | 器種 | 残存部位 | 出土層位 | 口径 | 器高 | 底径 | 外面調整 | 内面調整 | 底面 | 混入物 | 備考 |
|--------|-----|-----|-----------|------------|------|------|-----|----------|---------|---------|---------|-----|
| 第7回-3 | 土師器 | 皿 | 完形 | 体部直上 | 15 | 4.4 | 6.1 | ロクロ | ロクロ | 回転糸切 | 海螺骨針、石糸 | |
| 第7回-4 | 土師器 | 杯 | 1/4L縁部～底部 | 理上5層 | 11.4 | 3.8 | 5.2 | ロクロ | ロクロ | 回転糸切 | 海螺骨針、火矢 | |
| 第7回-5 | 土師器 | 小甕 | 完形 | 縁上5層 | 3.7 | 1.3 | 1.9 | ナデ | ナデ | 海螺骨針、火矢 | | |
| 第7回-6 | 土師器 | 小甕 | 1/3L縁部～底部 | 理上5層 | 16 | 10.5 | 9.2 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | 海螺骨針、石糸 | | |
| 第7回-7 | 土師器 | 小型甕 | 口縁部～体部 | カマド層上2層 | 15.8 | | | ケズリ | ナデ | 海螺骨針、火矢 | | 補修孔 |
| 第7回-8 | 土師器 | 小甕 | 完形 | 縁上5層 | 14.3 | 16.1 | 7.7 | ヨコナデ、ケズリ | ナデ | 海螺骨針、石糸 | | 補修孔 |
| 第7回-9 | 土師器 | 小甕 | 体部～底部 | SP10層・1/4層 | | 7.2 | | ケズリ | ナデ | 砂紙 | 石糸 | |
| 第7回-10 | 土師器 | 土瓶 | 口縁部～体部 | 埋土4層 | 33 | | | ケズリ | ナデ | ナデ | 石糸 | |

土器はカマド内では検出されず、廃棄時期に外へ持ち出されたものと考えられる。火床面は使用時期の異なるものが3面確認され、その内古い時期の2面は新しい住居跡の貼床よりも下部で検出されていることから、古い住居跡と同様の場所でカマドは使用されていたものと考えられる。

本住居跡からの出土遺物は土師器の皿、杯、ミニチュアの耳皿、小型甕、土鍋が出土している(第7図3～10)。3は上師器の皿であり、底面からゆるやかに内彎しながら立ち上がり、口縁部が外彎する器形である。調整は内外面ともロクロナデが施されている。底面は回転糸切痕を残している。4は土師器の杯であり、底面からゆるやかに内彎しながら立ち上がり、口縁部はやや外傾しながら立ち上がる器形である。調整は内外面ともロクロナデが施されている。底面は回転糸切痕を残している。6～8は土師器の小型甕である。いずれも口縁部が外反する器形であり、7・8は体部に最大径を有する器形であり、9はほぼ直線的に内傾する器形である。いずれも非ロクロであり、7・9は口縁部付近に横ナデが施され、体部はケズリ調整が施されている。内面はナデ調整が施されている。10は土師器の鍋であり、底部が欠損しているが、器形から判断して丸底であると考えられる。

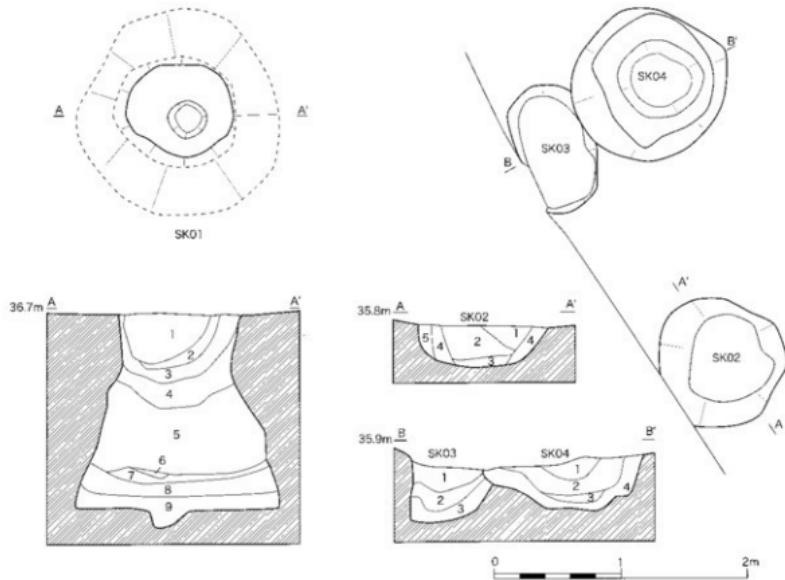
第2節 繩文時代の出土遺構と遺物

1. SK01

縩文時代の遺構としては、第1トレチよりプラスコ状土壙が1基検出された(第8図)。土壙の規模は検出面の長径82cm、短径72cm、底面の長径178cm、短径161cm、確認面からの深さ168cmを測る。このプラスコ状土壙は地山の漸移層、地山層及び白色粘土層の3層を掘込んで形成されており、底面中央部には小ピットが掘まれている。また、土壙が使用されなくなった後、底面にある程度堆積作用が進行している時期に後期前葉の土器が廃棄されているので、土壙の使用期間は後期前葉あるいはそれ以前であると考えられる。

出土した土器で資料化できたものは3点であり、第9図の1は縩文時代早期の尖底上器である。底部のみの出土であるため全体の形態は不明であるが、外面は無文であり、内面調整はナデ調整が施されている。

第9図の2は小型の深鉢形上器である。底部は残存していないため全体の器形は不明であるが、体部下半からゆるやかに内彎しながら立ち上がり体部上半よりゆるやかに外反する。口縁部は2個一対の山形突起を対面に配し、その間に単体の山形突起を配している小波状の形態を呈する。突起部には刺突具により穴が穿たれており(写真図版2-12a)、口線上端部には二重の沈線が施され、その間にLR縩文を施文している。体部上半と下半に一重の不連続な沈線を施し文様帶を区画し、その上下に向かい合う2個一対の三角形状の沈線を配し、間に不規則な四角形状の沈線を施している。沈線を施文後、沈線間に口縁部同様LR縩文を施文し



SK01

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|--------------|-----|-----|---|
| 1 | 10YR2/2 黒褐色 | やや弱 | 中 | 直徑1mm以下のローム粒、炭化物を微量に含む。 |
| 2 | 10YR2/1 黒褐色 | やや弱 | 中 | 直徑1~9mmのローム粒を少量、直徑1mm程度の炭化物を微量に含む。 |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 弱 | やや強 | 直徑1~9mmのローム粒を少量、直徑1mm程度の炭化物を微量に含む。 |
| 4 | 10YR3/1 黒褐色 | 中 | やや強 | 直徑1~9mmのローム粒を小量、直徑1~2mmの炭化物を微量に含む。 |
| 5 | 10YR3/3 黒褐色 | 中 | 弱 | 直徑1~2mmのローム粒を小量、直徑1~2mmの炭化物を微量に含む。 |
| 6 | 10YR1/1 黒色 | 弱 | やや弱 | 直徑1~2mmのローム粒を微量、直徑1~3mmの炭化物を中量含む。 |
| 7 | 10YR2/3 黒褐色 | 中 | 中 | 直徑1mm以下のローム粒を微量、直徑1~5mmの炭化物を中量、直徑1~2mmの地土粒を微量に含む。 |
| 8 | 10YR2/1 黒色 | 中 | やや弱 | 直徑1mm以下のローム粒を小量、直徑1~5mmの炭化物を中量、直徑1~9mmの地土粒を微量に含む。 |
| 9 | 10YR4/2 黑黄褐色 | 中 | やや強 | 直徑1~3mmのローム粒を中量、直徑1~5mmの炭化物を小量、直徑1~8mmの地土粒を中量含む。 |

SK02

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | 弱 | やや弱 | 直徑1mm以下のローム粒を少量、直徑1~5mmの炭化物を少量含む。 |
| 2 | 10YR2/1 黑褐色 | 弱 | 弱 | 直徑1mm以下のローム粒を少量、直徑1~5mmの炭化物を中量含む。 |
| 3 | 10YR3/3 黑褐色 | やや強 | 強 | 直徑9mm以下のローム粒を中量、直徑10~30mmのロームブロックを少量、直徑1~2mmの炭化物を中量含む。 |
| 4 | 10YR2/3 黑褐色 | 弱 | 弱 | 直徑2mm以下のローム粒を少量、直徑1mm以下の炭化物を少量含む。 |
| 5 | 10YR2/1 黑色 | 強 | やや強 | 直徑1~2mmのローム粒を少量、直徑1~2mmの炭化物を少量含む。 |

SK03

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|-------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | やや弱 | やや弱 | 直徑1~2mmのローム粒を中量、直徑1~2mmの炭化物を少量含む。 |
| 2 | 10YR2/2 黑褐色 | やや強 | やや強 | 直徑1~2mmのローム粒を少量、直徑50mmのロームブロックを微量、直徑1~2mmの炭化物を少量含む。 |
| 3 | 10YR1/1 黑褐色 | やや強 | 強 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑10~30mmのロームブロックを多量、直徑1~5mmの炭化物を中量含む。 |

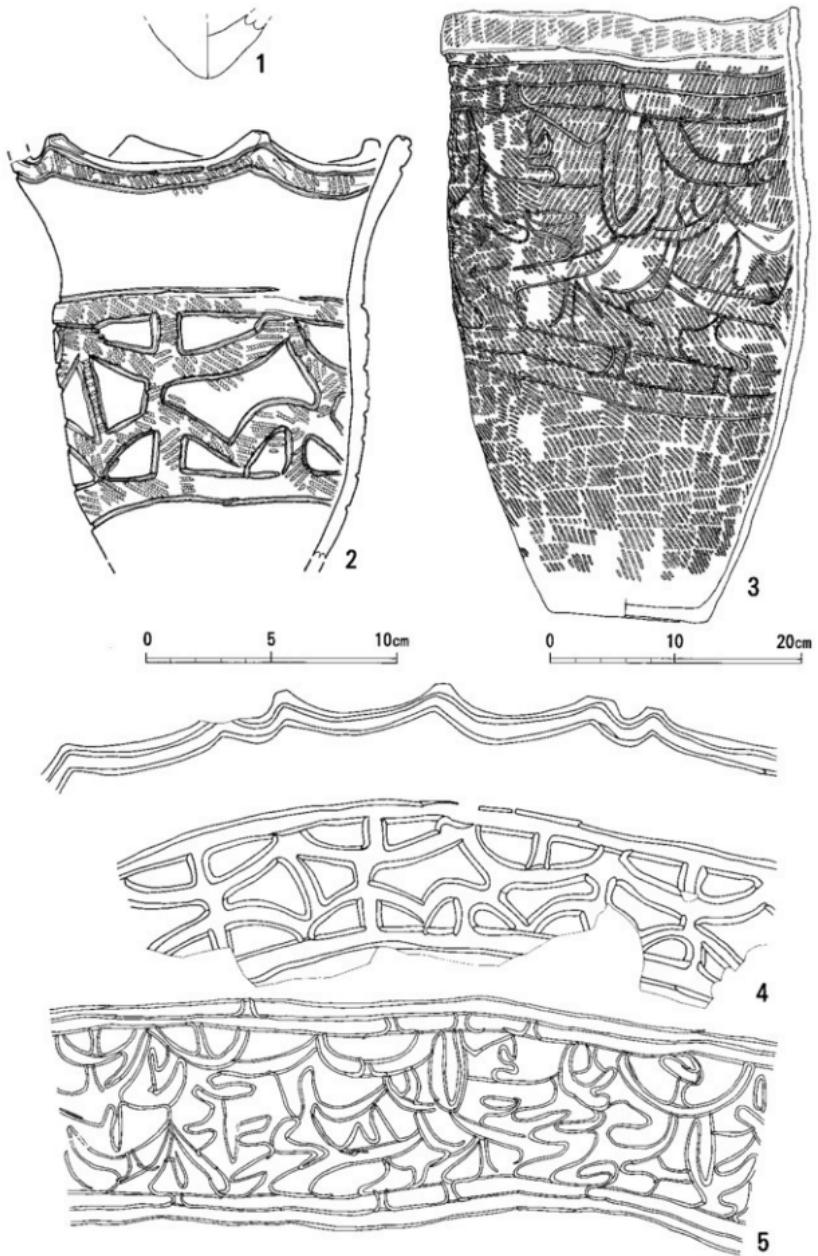
SK04

| 層位 | 色調 | 粘性 | しまり | 含 有 物 |
|----|--------------|-----|-----|--|
| 1 | 10YR1/7/1 黒色 | やや弱 | やや強 | 直徑1~2mmのローム粒を少量、直徑1~2mmの炭化物を微量含む。 |
| 2 | 10YR2/1 黒色 | やや弱 | やや弱 | 直徑1~2mmのローム粒を中量、直徑1~2mmの炭化物を少量含む。 |
| 3 | 10YR2/2 黑褐色 | やや強 | やや強 | 直徑1~2mmのローム粒を少量、直徑50mmのロームブロックを微量、直徑1~2mmの炭化物を少量含む。 |
| 4 | 10YR3/1 黑褐色 | やや強 | 強 | 直徑1~5mmのローム粒を多量、直徑10~30mmのロームブロックを多量、直徑1~5mmの炭化物を中量含む。 |

第8図 SK01-02-03-04 検出状況

ている。

第9図の3は大型の深鉢形土器である。器形は底面から体部にかけてゆるやかに内壁しながら立ち上がり、体部上半から口縁部にかけて直上する。口縁部は折り返しの複合口縁であり、Lrの横走縄文が施文されている。体部は2本の沈線で文様帯を区画し、その中にRLの縦走縄文もしくはLRの横走縄文を施文した後、



第9図 SK01出土土器（4は2の、5は3の文様展開図）

U字状の沈線文をランダムに組み合わせている。内面は丁寧なミガキが施されている。

2. SK02

遺構内からの出土遺物はないが、遺構掘込面から縄文時代中期の土器が出上しているため、縄文時代中期以降の土壤であると考えられる。調査区外に延びているため詳細は不明であるが、直径101cmを測る円形の土壤である(第8図)。

3. SK03・04

遺構内からの出土遺物はないが、遺構掘込面から縄文時代中期の土器が出上しているため、縄文時代中期以降の土壤であると考えられる。規模はSK03がSK04にきられているため詳細は不明であるが、長径104cm、短径約70cm、最大深度42cmを測る楕円形の土壤である。SK04は長径126cm、短径117cm、最大深度42cmを測る円形の土壤である(第8図)。

第3節 遺構外の出土遺物

遺構外の出土遺物として縄文時代前期末、中期、後期の土器・上偶及び時期不明の石器・石製品が出土している。なおSI02の埋上から出土した遺物が殆どであるが、住居の構築時期と異なるため、住居内への縄文時代の遺物包含層の流れ込みと判断して遺構外の遺物として掲載した。

上器

縄文時代前期末の遺物(第10図1～4)

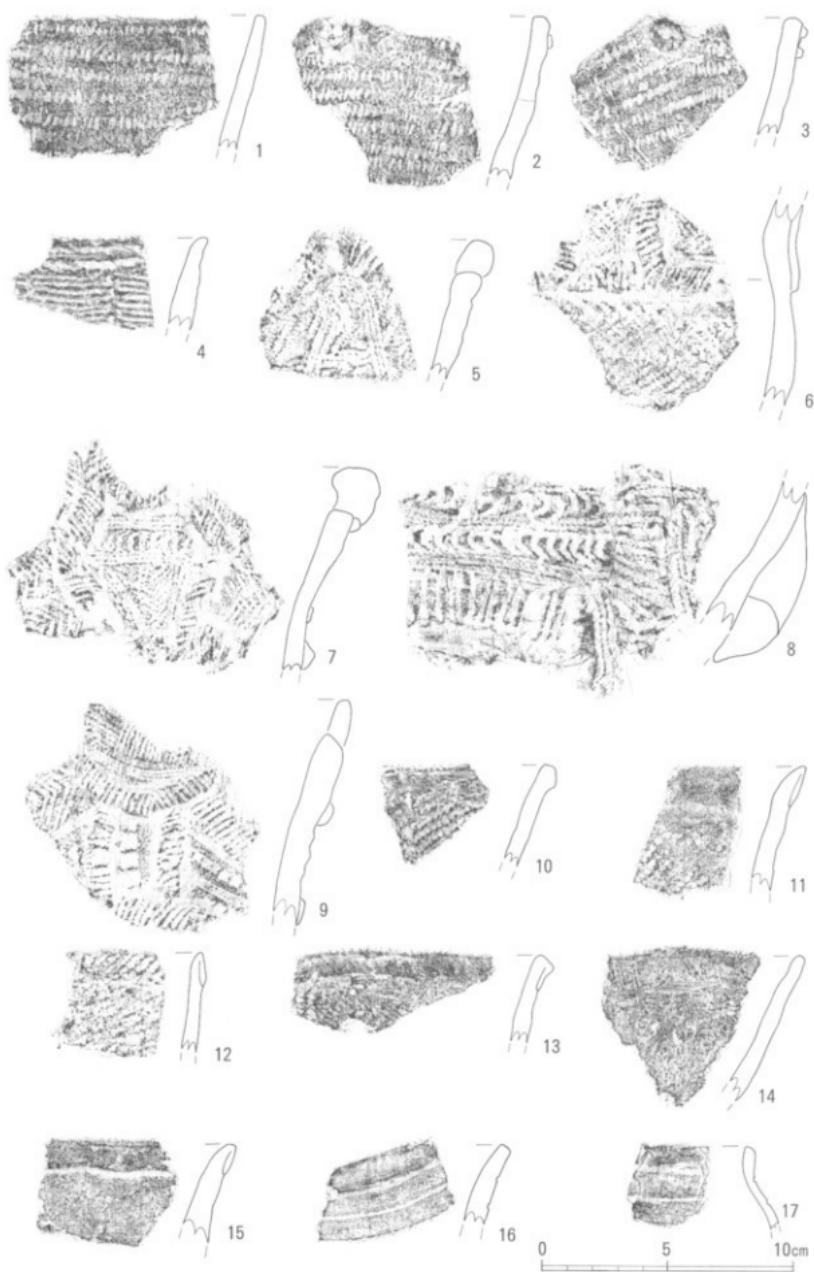
第10図1～3は、同一個体と考えられるものである。口縁部は小波状を呈し、中心部には棒状の工具で刺突されたボタン状の貼付がなされている。その貼付部上の口唇部には押圧縄文が施文されている。また外面には単軸絡条体第1類が施文されている。内面はミガキ調整が施されている。第10図4は、平坦口縁を呈し、口縁部には2条の押圧縄文が斜位に施文され、その下に単軸絡条体第1類が施文されている。

縄文時代中期の遺物(第10図5～9)

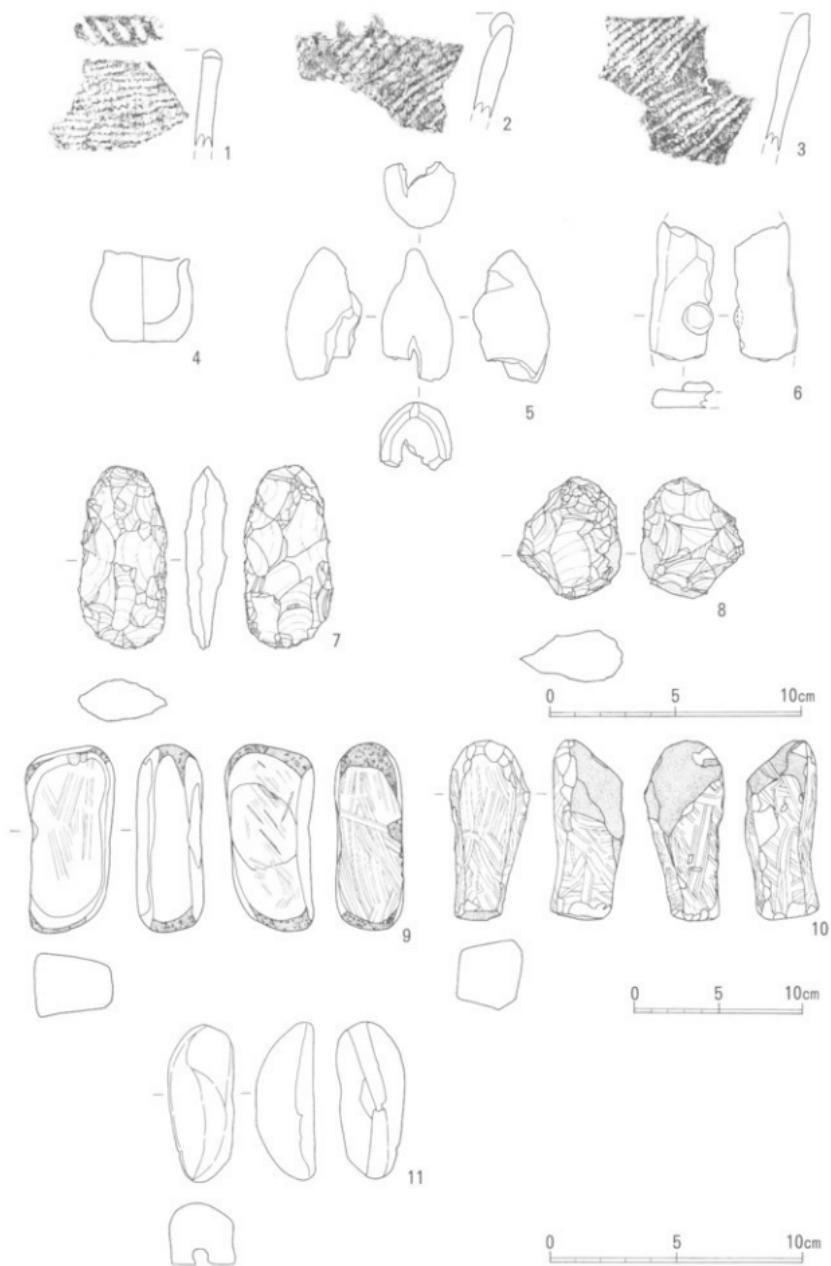
円筒上層b～c式に属する個体である。第10図5は、1対の山形突起を有する波状口縁である。突起部には押圧縄文が施文され、外面には横位に押圧縄文を施文した後、蔽状の文様が施文されている。内面はミガキ調整が施されている。第10図6・7は同一個体であると考えられる。一対の山形突起を有する波状口縁であり、口縁端部及び口頭部に隆帯が貼付けられている。その間に鰐齒状、馬蹄形状の横圧縄文が施文されている。内面はミガキ調整である。第10図8も縦位及び横位の隆帯が貼付けられており、隆帯及び口頭部には押圧縄文が横位、縦位に施文され、その間に馬蹄形状の横圧縄文が施文されている。内面はミガキ調整である。第10図9は一対の山形突起を有する波状口縁であり、口縁端部には隆帯は見られず、端面形は台形状を呈する。口縁部の突起間の形態に沿うように隆帯は曲線的に貼付けられ、その下に2本の縦位、その下に横位の隆帯が貼付けられている。隆帶上及び外面には横圧縄文が施文され、その間に刺突文が施文されている。

縄文時代後期の遺物(第10図10～17)

第10図11～15はいずれも折り返し口縁の個体であり、11・12は縄文が施文されており、13～15は無文である。第10図10は折り返し口縁ではないが、口縁端面形が13と同様であり、胎土も類似しているため、同時期のものと考えた。これらの土器は後期初頭のものと考えられる。第10図16・17はそれぞれ平行沈線文が施文されており、十腰内I式のものと考えられる。



第10図 遺構外出土上器



第11図 遺構外出土上器・土製品・石器・石製品

出土器観察表

| 図版No. | 出典 | 種類 | 出土場所 | 出土背景 | 外 国 文 横 | 内面調整 | 調 入 物 | 備 考 |
|---------|-------|-------|------------|--|---------|-------------|--------------|-----|
| 第10図-1 | 深鉢 | 口縁部 | SI02M 1.5層 | 長軸輪廓全体1類 | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | 第10図2、3と同一個体 | |
| 第10図-2 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土5層 | (口縁) R押印 (口縁部) 長軸輪廓全体1類、ボタン状貼付 (中央に横状凹溝による刻文) | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | 第10図1、3と同一個体 | |
| 第10図-3 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土1層 | (口縁) R押印 (口縁部) R単軸輪廓全体2類、ボタン状貼付 (中央に横状凹溝による刻文) | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | 第10図1、2と同一個体 | |
| 第10図-4 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土上部 | 折れ圧印、R単軸輪廓全体1類 | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | | |
| 第10図-5 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土4層 | (口縁) R押印 (頭部) RL押印、T押印 | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | | |
| 第10図-6 | 深鉢 | 頭部～体部 | SI02埋土5層 | (頭部) RL押印 (頭部) RL押印、R押印、(体部) 結束1 (RL、LR) | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | 第10図6と同一個体 | |
| 第10図-7 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土2層 | (頭部) R押印 (頭部) RL押印、T押印 | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | 第10図5と同一個体 | |
| 第10図-8 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土3層 | (頭部) RL押印 (頭部) RL押印、C字伏R押印 | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | | |
| 第10図-9 | 深鉢 | 口縁部 | 表土 | (頭部) RL押印 (頭部) RL押印、U字による斜突 | ミガキ | 黒雲母、石英 | | |
| 第10図-10 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土1層 | RL横走 | ミガキ | 黒雲母 | | |
| 第10図-11 | 深鉢 | 口縁部 | 表土 | 折り返しU字縫、RL横走 | 不明 | 石英、海綿骨針 | | |
| 第10図-12 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土2層 | 折り返しU字縫、R単軸輪 | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | | |
| 第10図-13 | 深鉢 | 口縁部 | 表土 | 折り返しU字縫、無文 | ナデ | 黒雲母、石英 | | |
| 第10図-14 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土4層 | 折り返しU字縫、無文 | ナデ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | 外面に擦上げ痕 | |
| 第10図-15 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土4層 | 折り返しU字縫、無文 | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | | |
| 第10図-16 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土3層 | 平行沈縫文 | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | | |
| 第10図-17 | 短鉢 | 口縁部 | SI02埋土6層 | 平行沈縫文 | ミガキ | 黒雲母 | | |
| 第11図-1 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土2層 | (口縫) 斜方向の斜刺 (体部) LR横走 | 不明 | 黒雲母、石英、海綿骨針 | | |
| 第11図-2 | 深鉢 | 口縁部 | 表土 | (口縫) 突起突起 (頭部) RL横走 | ミガキ | 黒雲母、石英、海綿骨針 | | |
| 第11図-3 | 深鉢 | 口縁部 | SI02埋土2層 | LR横走 | ミガキ | 黒雲母、石英 | | |
| 第11図-4 | ミニチュア | 光面 | SI02埋土1層 | 無文、ミガキ | ナデ | 黒雲母、海綿骨針 | | |

出土土製品観察表

| 図版No. | 種 別 | 出典 | 出土場所 | 現存部 | 外 (表) 内面調査 | 内 (裏) 内面調査 | 追 入 物 | 備 考 |
|--------|-------|----------|------|-----|------------|------------|----------|----------------|
| 第11図-5 | 土偶 | 表土 | | 胸部 | ミガキ | ナデ | 黒雲母、海綿骨針 | 板状土偶、ボタン状の貼付あり |
| 第11図-6 | 押模土製品 | SI02埋土5層 | はがき形 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 黒雲母、石英 | 内面裏調 |

出土石器・石製品観察表

| 図版No. | 種 別 | 出典 | 出土場所 | 現存部 | 外 (表) 内面調査 | 内 (裏) 内面調査 | 追 入 物 | 備 考 |
|--------|-------|----------|------|-----|------------|------------|----------|----------------|
| 第11図-5 | 土偶 | 表土 | | 胸部 | ミガキ | ナデ | 黒雲母、海綿骨針 | 板状土偶、ボタン状の貼付あり |
| 第11図-6 | 押模土製品 | SI02埋土5層 | はがき形 | ミガキ | ミガキ | ミガキ | 黒雲母、石英 | 内面裏調 |

時期不明の遺物(第11図1～4)

1は口縁部に斜位の刻み目が施されている深鉢である。2は口縁部に突起が配されている深鉢である。いずれの個体も正確な時期は不明であるが、縄文時代後期末葉以降であると考えられる。3は小波状口縁の深鉢である。4はミニチュアの鉢形土器であり、内外面ともミガキが施されている。

土製品

鉢状土製品(第11図5)

外面は無文であり、頂部は扁平な円錐形を呈する。調整は内外面ともミガキが施され、外面の一部と内面に黒斑が見られる。縄文時代後期前葉の個体と考えられる。

土偶(第11図6)

土偶の胴部の破片である。ヘソ?と考えられるボタン状の貼付けが施されている。表面はミガキ調整、裏面はナデ調整が施されている。縄文時代後期の個体と考えられる。

石 器

ヘラ状石器(第11図7)

珪質頁岩製であり、背面及び腹面に2次加工が施され、下端に刃部が形成されている。刃部の形態は丸みを帯びており、刃角は30度である。

不定形石器(第11図8)

珪質頁岩製であり、小礫の両面を加工して作られている。打面が多方向に及び、全体として不整円形状の

形態を呈する。刃角65度である。

砥石(第11図9・10)

いずれも凝灰岩製であり、先端部が丸みを帯びた方形を呈する。斜位に擦痕が認められる。10は2次焼成を受けており黒斑や火ハネが認められる。

石製装飾品(第11図11)

翡翠製であり、管玉状を呈し、半分が欠損している。中心部に両端から穿孔されている。外面は丁寧なミガキが施されている。

第4章 調査のまとめ

紅葉遺跡は原子溜池の北側に位置し、2本の小河川に挟まれた舌状台地の平坦面に位置する。この遺跡は平成11年に須恵器窯跡の分布調査の結果発見された遺跡であり、平坦部のいたるところに埋まりきらない遺構が凹地として確認された。そこで各遺構の性格を非破壊により明らかにするため、奈良文化財研究所の西村康先生指導の下、磁気及びレーダ探査を平成12年から平成14年にかけて行ってきた。その結果多くの堅穴住居跡及び土壤跡が確認され、また舌状台地突端に位置する須恵器窯跡との関連性を調査するために今回発掘調査が実施された。

その結果縄文時代のフ拉斯コ状土壤1基と平安時代の堅穴住居跡2棟が確認され、また遺構外の出土遺物から縄文時代早期・前期末・中期前葉～中葉・後期初頭～前葉・平安時代にわたって使用されてきた遺跡であることが判明した。その内平安時代の堅穴住居跡2棟は当初検出されることが期待された須恵器工人の集落跡と考えられるロクロピットを持つ住居ではなく、通常の集落として機能していたものと考えられる住居跡であった。また出土遺物にも須恵器は殆ど見られず(わずかに壺の体部破片が2片出土したのみ)、土師器甕に関してもロクロ使用のものが見られず、須恵器製作時期よりも新しい住居跡であると考えられる。

今後は他の住居跡の調査を継続して行い、当台地上の集落跡変遷を明らかにすることが課題である。また同時にロクロピットを持つ堅穴住居跡が検出されている工人の集落跡としての可能性が高い原子溜池(4)遺跡も調査の対象として、原子窯跡支群において須恵器製作に関わっていた須恵器工人の工房跡を明らかにすることが必要である。

[参考文献]

青森県教育委員会 1974

『今別町浜名遺跡・中宇田遺跡・西田遺跡・五郎兵衛山遺跡・五所川原市原子溜池遺跡群発掘調査報告書』

青森県埋蔵文化財調査報告書 第13集

五所川原市教育委員会 1974 『原子遺跡』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集

山内清男 1979 『日本先史土器の縄文』

五所川原市編 1993 『五所川原市史 資料編1』

五所川原市教育委員会 1997 『原子溜池(4)遺跡・原子溜池(5)遺跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書 第20集

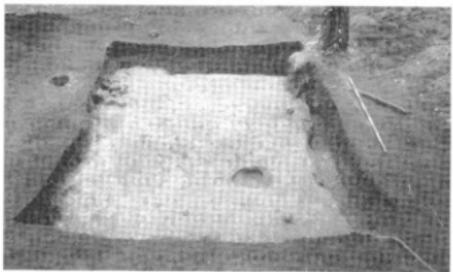
青森県教育委員会 2001 『十賀内(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第304集

青森県史編さん自然部会編 2001 『青森県史 自然編 地学』

青森県教育委員会 2002 『安田(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第321集

青森県史編さん考古部会編 2002 『青森県史 別編 三内丸山遺跡』

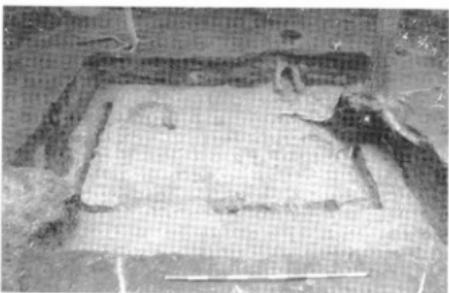
写 真 図 版



1. SI01 完掘状況



2. SI01 カマド



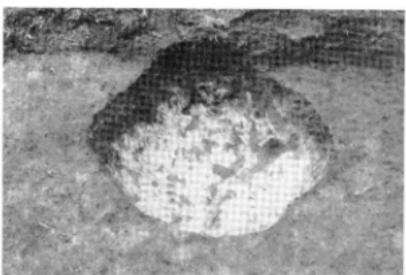
3. SI02 完掘状況



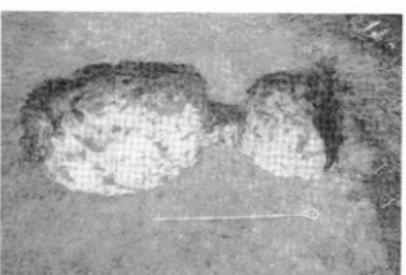
4. SI02 カマド



5. SK01 完掘状況

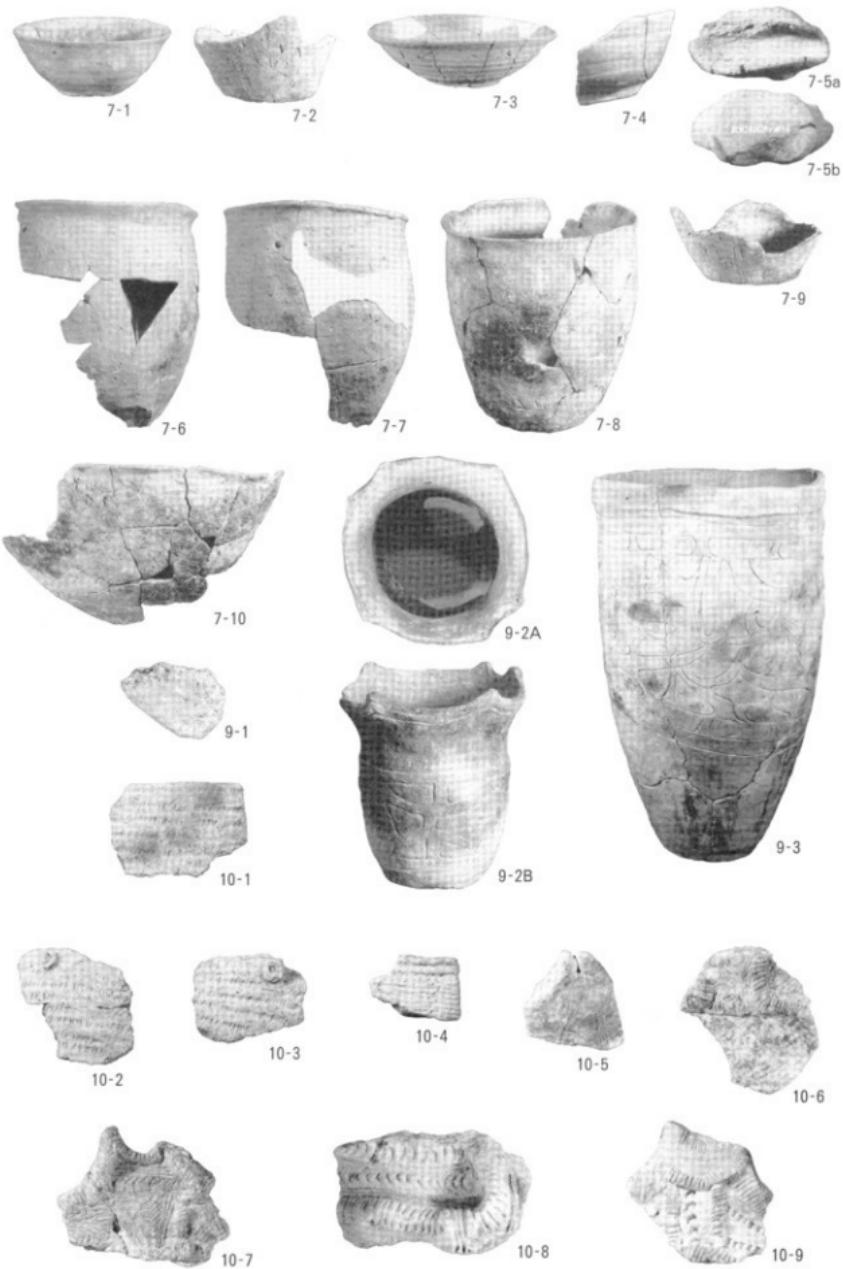


6. SK02 完掘状況

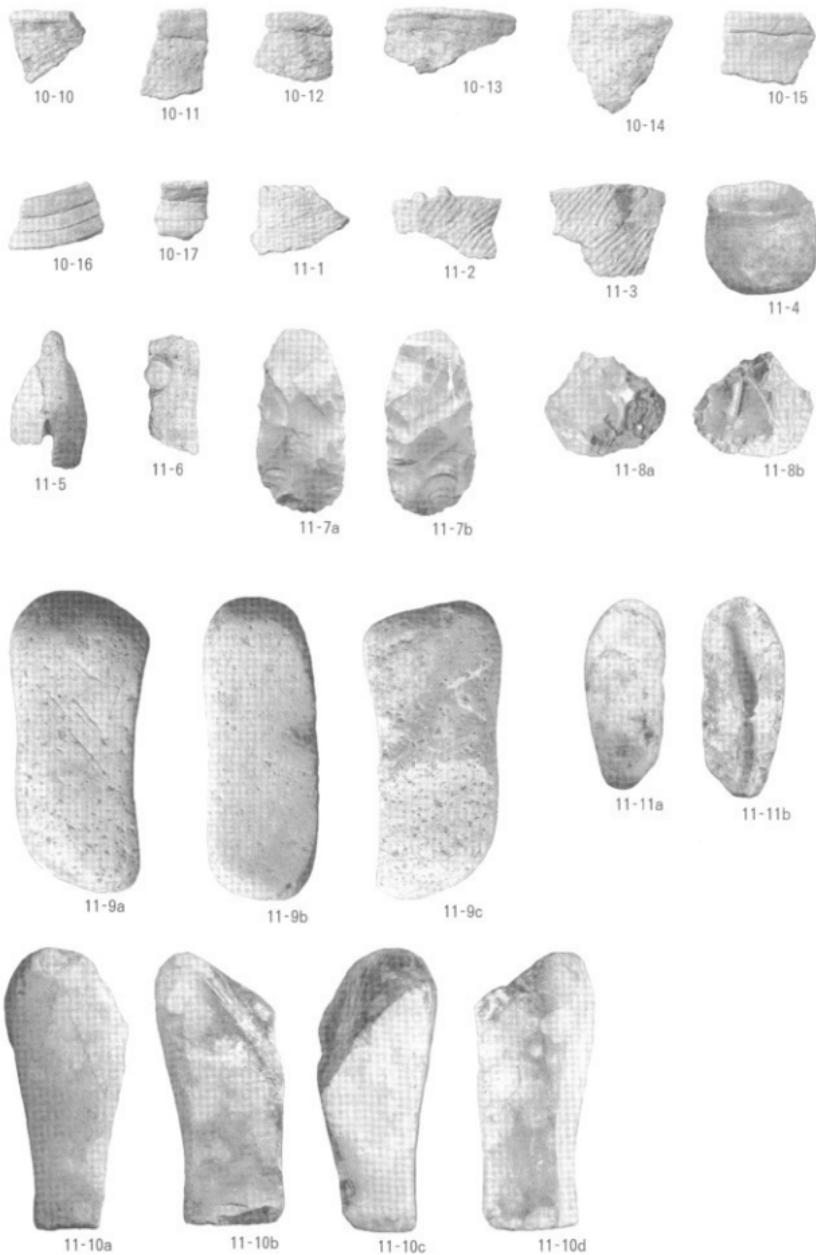


7. SK03・04 完掘状況

写真図版 1 紅葉遺跡出土遺構



写真図版 2 紅葉遺跡出土遺物(1)



写真図版 2 紅葉遺跡出土遺物 (2)

発掘調査抄録

| | |
|--------|--|
| ふりがな | もみじいせきはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 紅葉遺跡発掘調査報告書 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第24集 |
| 編集者名 | 藤原 弘明 |
| 編集機関 | 五所川原市教育委員会 |
| 所在地 | 〒037-8686 青森県五所川原市岩木町12番地 TEL 0173-35-2111 |
| 発行年月日 | 平成15年3月31日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査面積 | 調査期間 | 調査原因 |
|-------|--------------------|-------|--------|-----------|------------|-----------|------------------|------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 紅葉遺跡 | 青森県五所川原市原子字紅葉285-7 | 02205 | 05-012 | 40度46分13秒 | 140度31分56秒 | 163平方メートル | 平成14年8月22日～8月30日 | 学術調査 |

| 所収遺跡 | 種別 | 時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|------|-----|-------|--------------------------------|--|---------------------------------------|
| 紅葉遺跡 | 集落跡 | 縄文、平安 | フ拉斯コ状土壙 1基、土壙3基、 竪穴住居跡2棟 | 縄文時代早期・ 前期・中期・後期の土器、土偶、 石器、石製品、 土師器、須恵器 | 堆積があまり進んでいないため、 古代の住居跡が地表面から確認できる。 |

五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集

紅葉遺跡

発行日 2003年3月31日

編集発行 五所川原市教育委員会

〒037-8686 青森県五所川原市岩木町12番地
TEL 0173-35-2111

印刷 備西北印刷

〒037-0014 青森県五所川原市種実字米崎49-3
TEL 0173-35-1303

